

作成:2003年5月1日
改訂:2010年1月19日
2010年12月 1日

低 圧 絶 縁 監 視 装 置 **IGR-400シリーズ 配線要領書**

※貫通型零相変流器（窓径： $\phi 40$ 、 $\phi 68$ 、 $\phi 104$ ）の形状が異なる場合があります。
要領書内型式：ZT-□□ 新型零相変流器：ZT-□□C
となります。詳細は貫通型零相変流器仕様書を御参照下さい

ミドリ安全株式会社
電気計測事業部

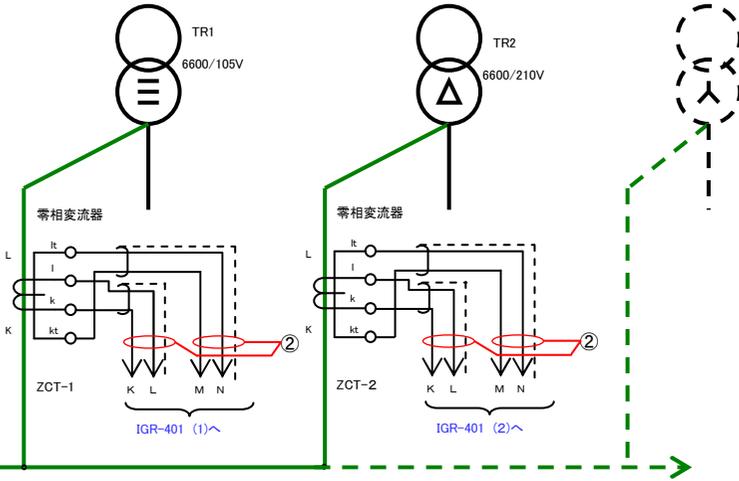
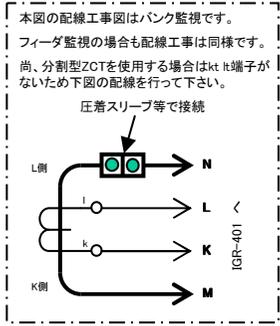
<目次>

IGR-400シリーズ配線工事要領	…1
参考資料	
① 貫通型ZCTについて(B種接地線取付け時)	…2
② 貫通型ZCTについて(フィーダ取付け時)	…3
③ 分割型ZCTについて(B種接地線取付け時)	…4
④ 分割型ZCTについて(フィーダ取付け時)	…5
⑤ ゴムホルダ用分割型ZCTについて(B種接地線取付け時)	…6
⑥ ゴムホルダ用分割型ZCTについて(フィーダ取付け時)	…7
⑦ 重畳変成器CCT-30について	…8
⑧ 基準電圧入力線(NE線)について	…9

* 本資料は、「配線施行上の注意事項」についてまとめたものです。
設定方法などの詳細につきましては別冊「低圧絶縁監視装置IGR-400シリーズ取扱説明書」をご参照ください。

IGR-400シリーズ 絶縁監視装置・配線工事要領

本装置の配線工事に当たっては設置場所の都合や内線規定を考慮の上、下記の配線材料をご用意して下さい。

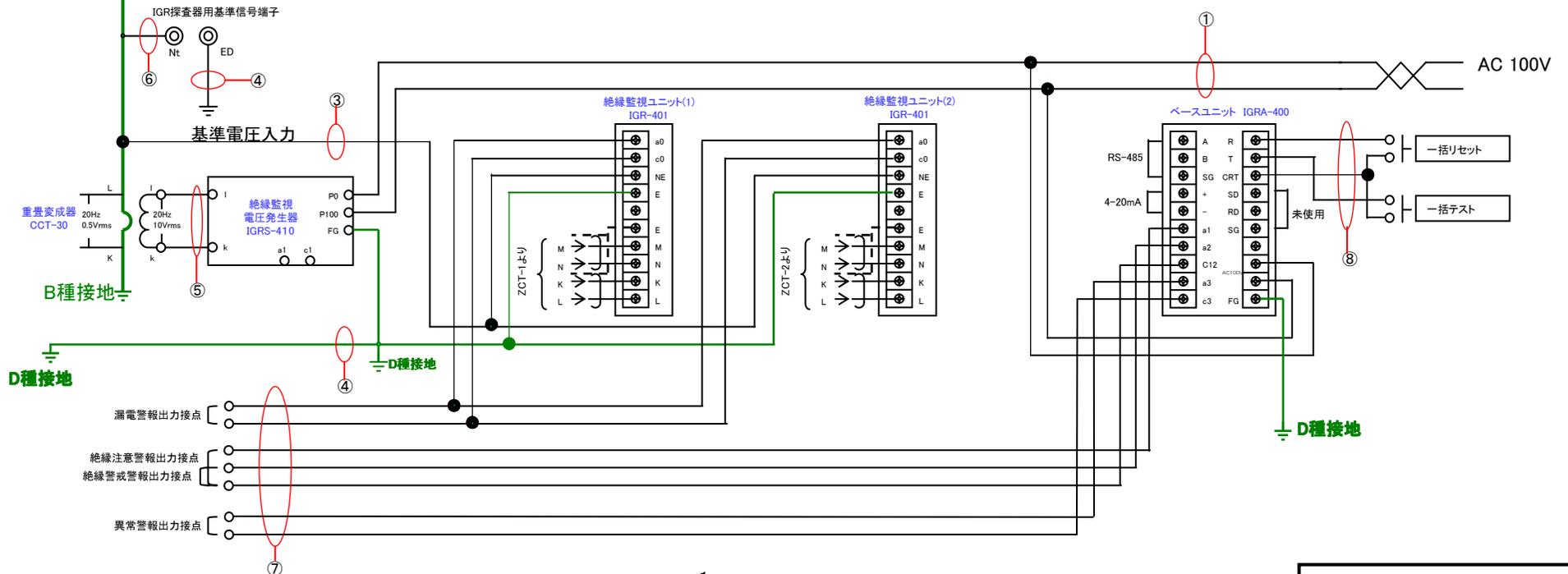


推奨配線材料一覧

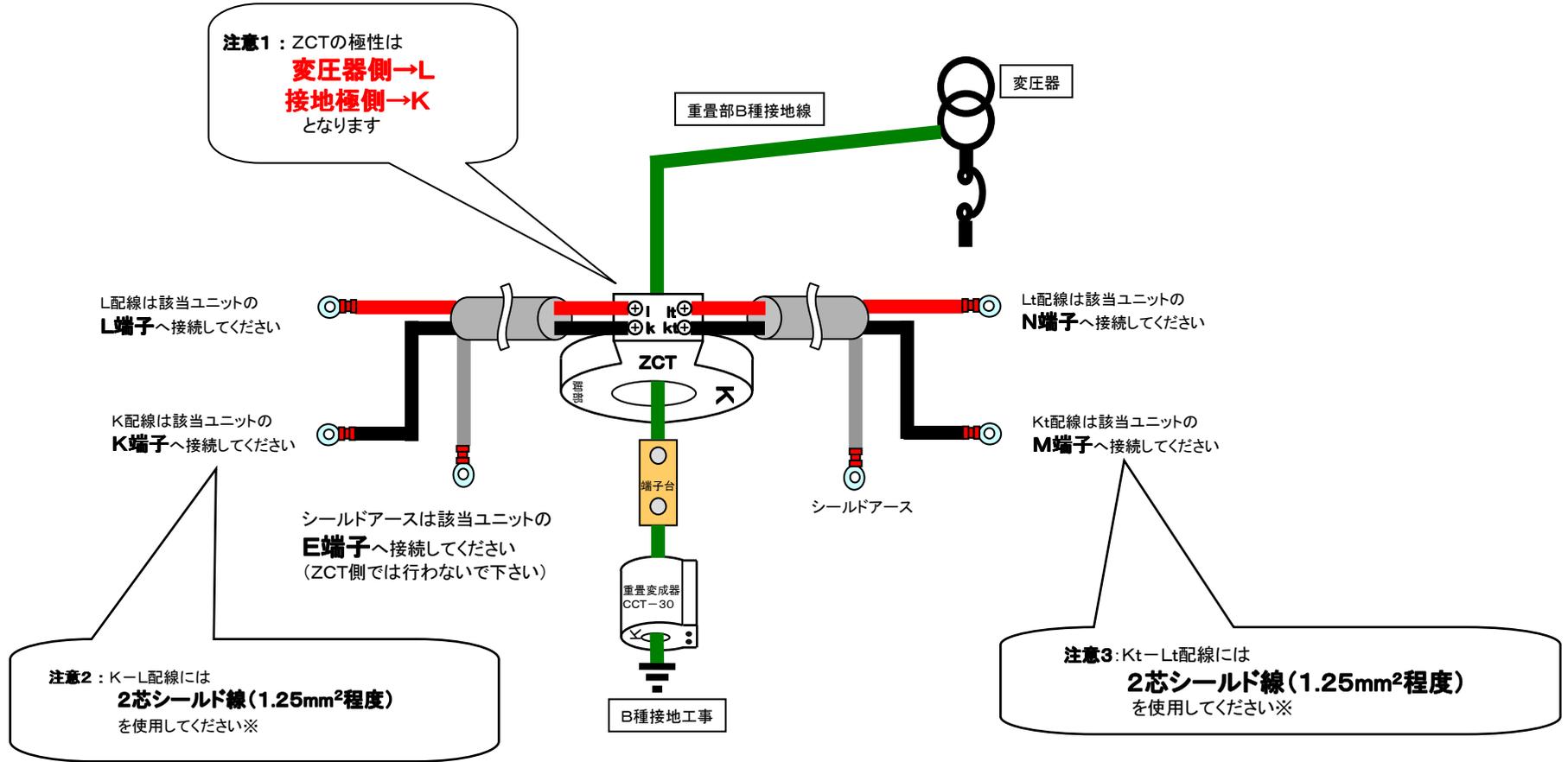
番号	名称	配線コード仕様	線径	端末処理
①	電源	ビニル電線・IV H1VV等	1.25mm ² 相当	本体側:M4丸型圧着端子
②	ZCT-本体接続ケーブル	KL側:シールド付きビニル 2芯ケーブル「CVVS」 MN側:シールド付きビニル 2芯ケーブル「CVVS」	1.25mm ² 相当	本体側:M4丸型圧着端子 ZCT側:M4丸型圧着端子 または、M5丸型圧着端子
③	基準相入カコード	ビニル電線・IV H1VV等	1.25mm ² 相当	本体側:M4丸型圧着端子
④	接地線	ビニル電線・IV H1VV等	2.0mm ² 相当	本体側:M4丸型圧着端子
⑤	電圧発生器-重量変成器	ビニル2芯ケーブル「CV」	2.0mm ² 相当	発生器側:M4丸型圧着端子 重量側:M4丸型圧着端子
⑥	故障探査器基準信号	ビニル電線・IV H1VV等	1.25mm ² 相当	本体側: M4丸型圧着端子
⑦	警報出力	ビニル電線・IV H1VV等	1.25mm ² 相当	本体側: M4丸型圧着端子
⑧	一括テスト・リセット	ビニル電線・IV H1VV等	1.25mm ² 相当	本体側: M4丸型圧着端子

注記

- * 漏電警報出力接点 (a0 c0)は個別出力することが可能です。
- * 絶縁監視電圧発生器IGRS-410の警報接点(a1, c1)は高速で動作しますので、特別の場合を除き使用する必要はありません。
- * ZCTと絶縁監視ユニット(K L kt lt)間の配線距離が50m以内の場合は、4芯シールド(CVVS)が使用できます。
- * 一括テスト、リセット、IGR探査器用基準信号端子を設けた場合、メンテナンスが容易になります。



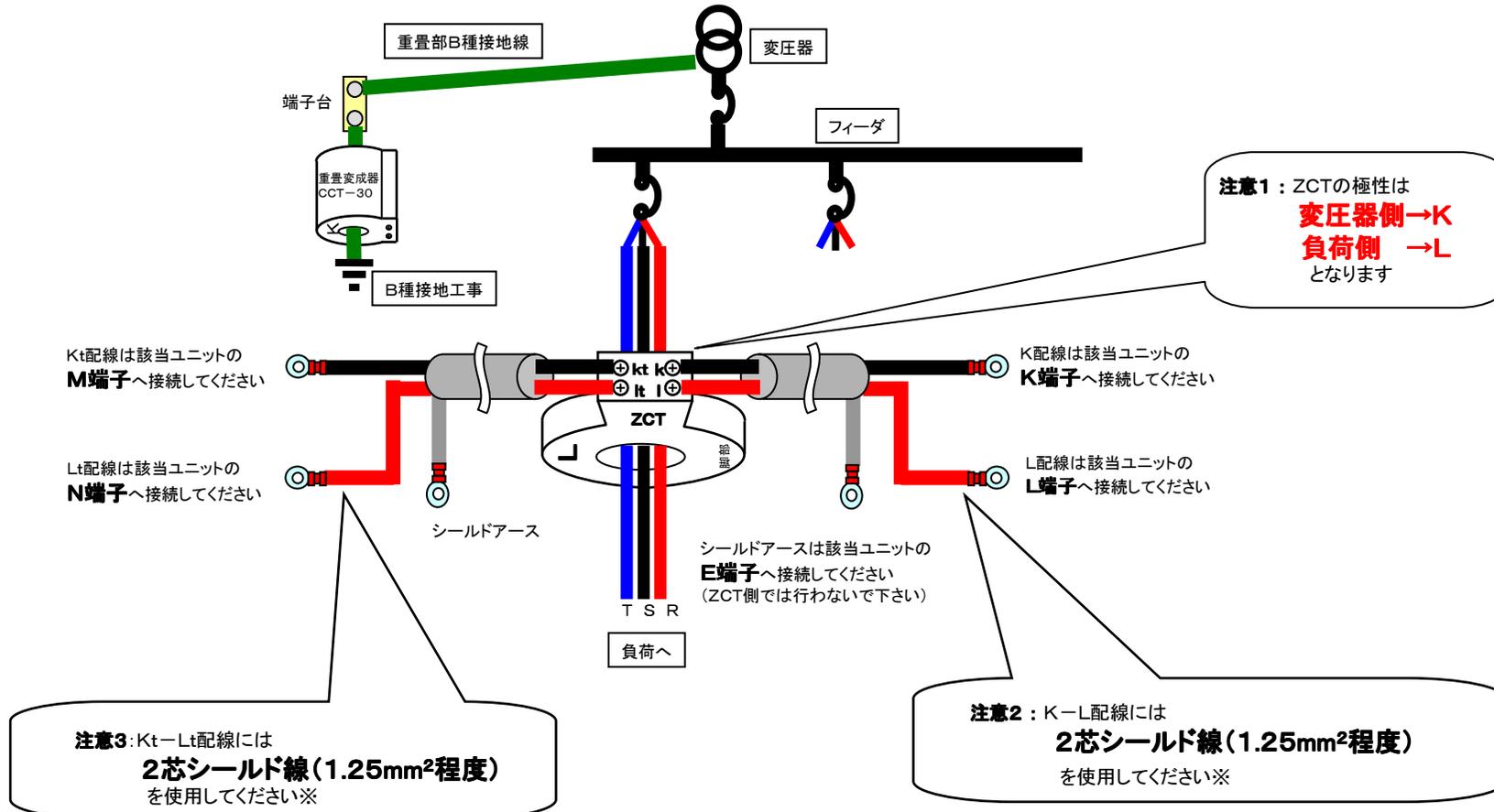
① 貫通型ZCT(B種接地線取付時)



※ZCTとユニット間の配線距離が50m以内では
 K-L/Kt-Lt配線に4芯シールド線を使用できます
 50m以上では2芯シールド線を2本使用してください

② 貫通型ZCT(フィーダ取付時)

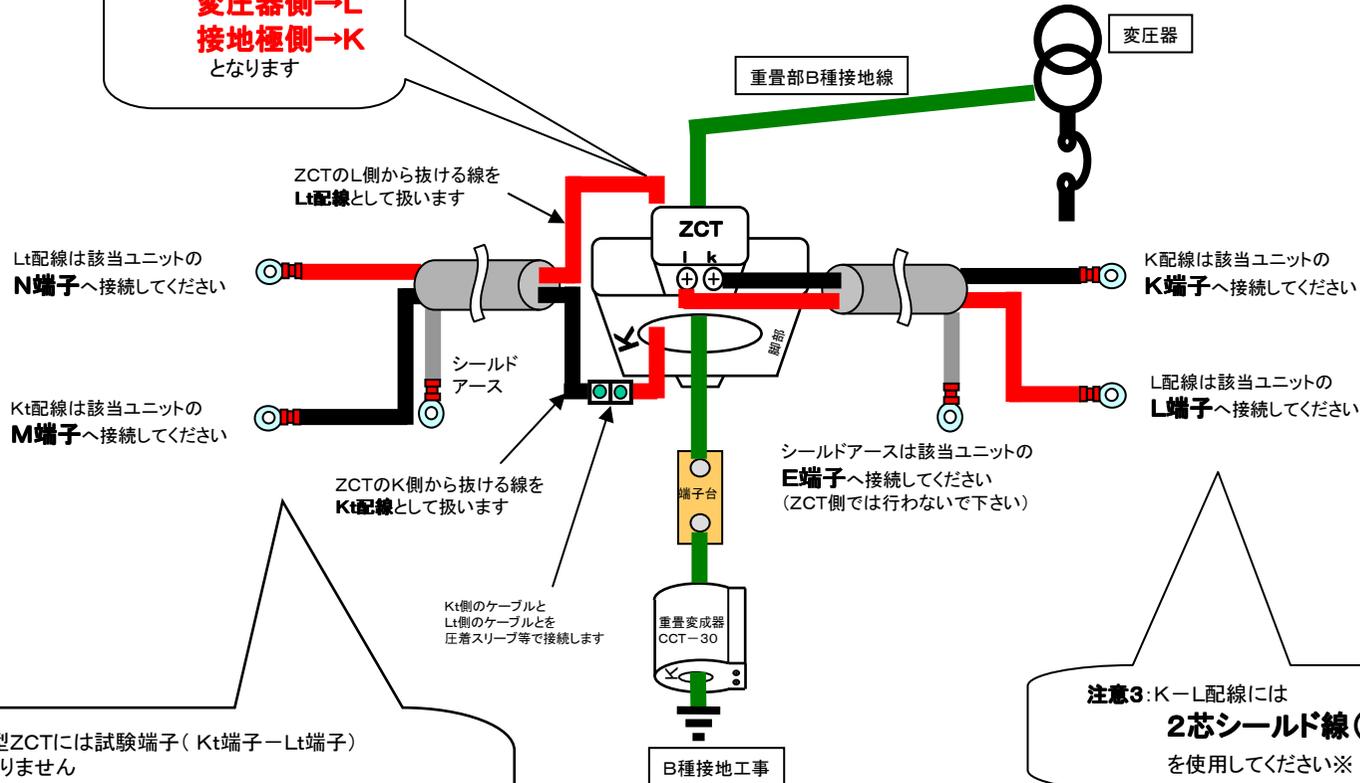
※ZCTとユニット間の配線距離が約50m
 以内ではK-L/Kt-Lt配線に4芯シールド線を使用できます
 50m以上では2芯シールド線を2本使用してください



③ 分割型ZCT(B種接地線取付時)

分割型ZCTにはK-L端子が2箇所ありますが、片側の端子はショートバーで短絡されていますので絶対に取り外さないでください

注意1：ZCTの極性は
変圧器側→L
接地極側→K
 となります



注意2：分割型ZCTには試験端子 (Kt端子-Lt端子)
 がありません
 従って、Kt-Lt配線はシールド線を図のように
 ZCT内に貫通させ、ZCTの**K側をKt配線・**
L側をLt配線として取り扱ってください
 又、配線には
2芯シールド線(1.25mm²程度)を使用
 してください※

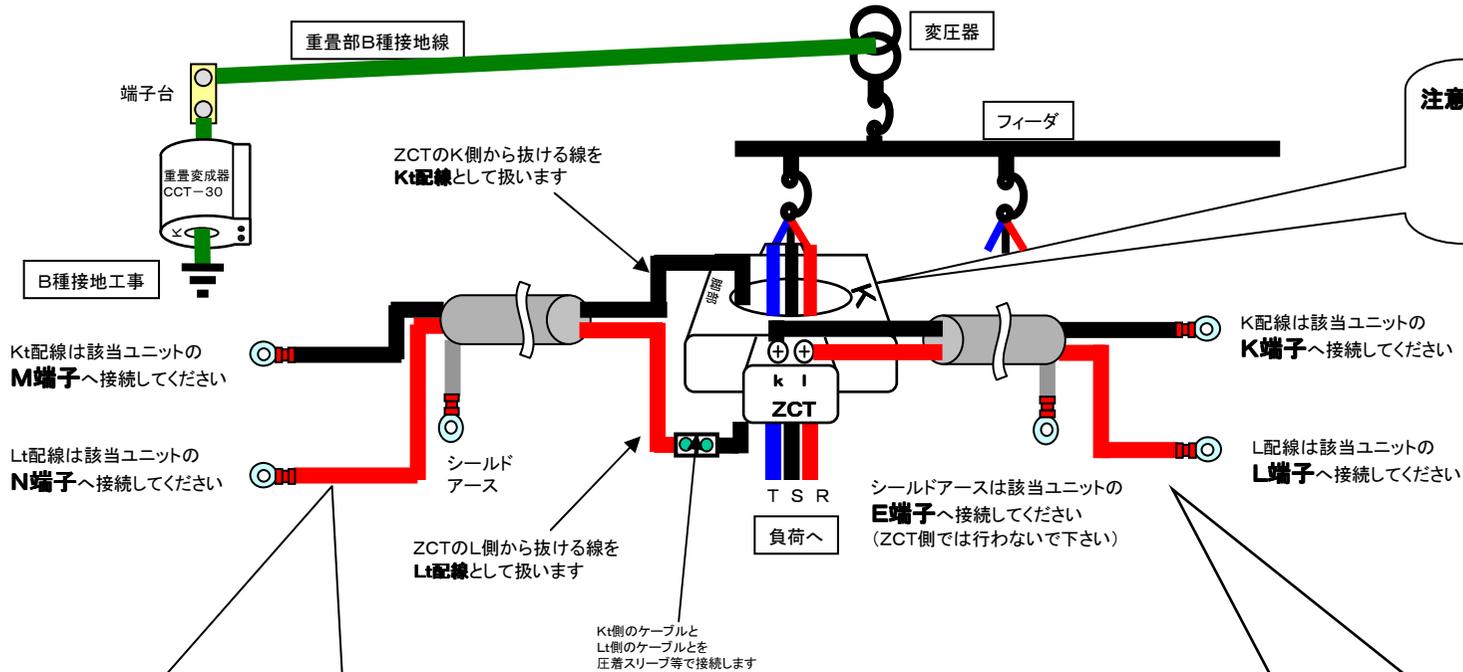
注意3：K-L配線には
2芯シールド線(1.25mm²程度)
 を使用してください※

※ZCTとユニット間の配線距離が約50m以内では
 K-L/Kt-Lt配線に4芯シールド線を使用できます
 50m以上では2芯シールド線を2本使用してください

④ 分割型ZCT(フィーダ取付時)

※ZCTとユニット間の配線距離が約50m以内では
K-L/Kt-Lt配線に4芯シールド線を使用できます
50m以上では2芯シールド線を2本使用してください

分割型ZCTにはK-L端子が2箇所ありますが、片側の端子はショートバーで短絡されていますので絶対に取り外さないでください



注意1 : ZCTの極性は
変圧器側 → K
負荷側 → L
となります

Kt配線は該当ユニットの
M端子へ接続してください

Lt配線は該当ユニットの
N端子へ接続してください

K配線は該当ユニットの
K端子へ接続してください

L配線は該当ユニットの
L端子へ接続してください

シールドアースは該当ユニットの
E端子へ接続してください
(ZCT側では行わないで下さい)

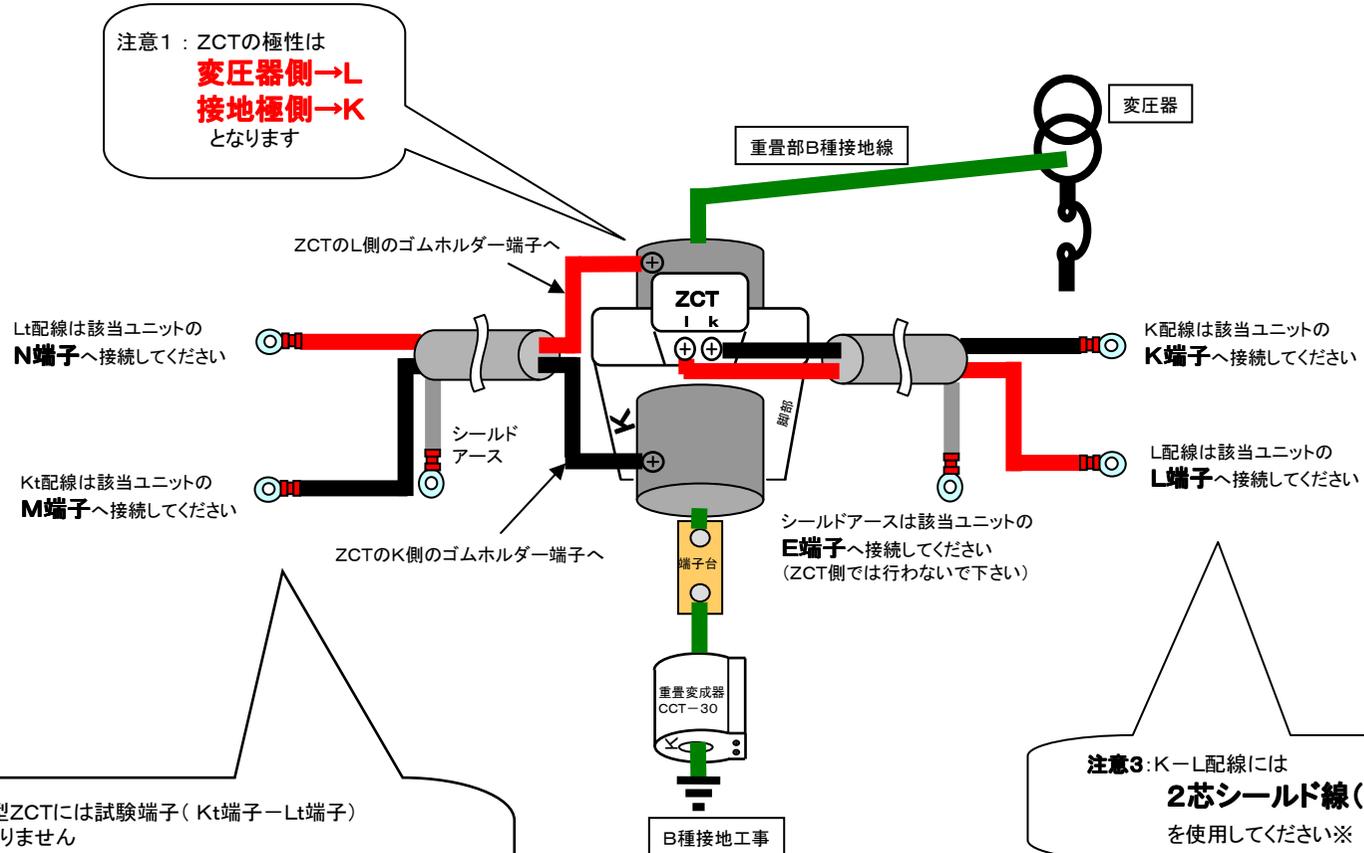
Kt側のケーブルと
Lt側のケーブルとを
圧着スリーブ等で接続します

注意3 : 分割型ZCTには試験端子 (Kt端子-Lt端子) がありません
従って、Kt-Lt配線はシールド線を図のようにZCT内に貫通させ、
ZCTの**K側をKt配線**・**L側をLt配線**として取り扱ってください
又、配線には
2芯シールド線(1.25mm²程度)を使用してください※

注意2 : K-L配線には
2芯シールド線(1.25mm²程度)を
使用してください※

⑤ ゴムホルダ用分割型ZCT(B種接地線取付時)

分割型ZCTにはK-L端子が2箇所ありますが、片側の端子はショートバーで短絡されていますので絶対に取り外さないでください

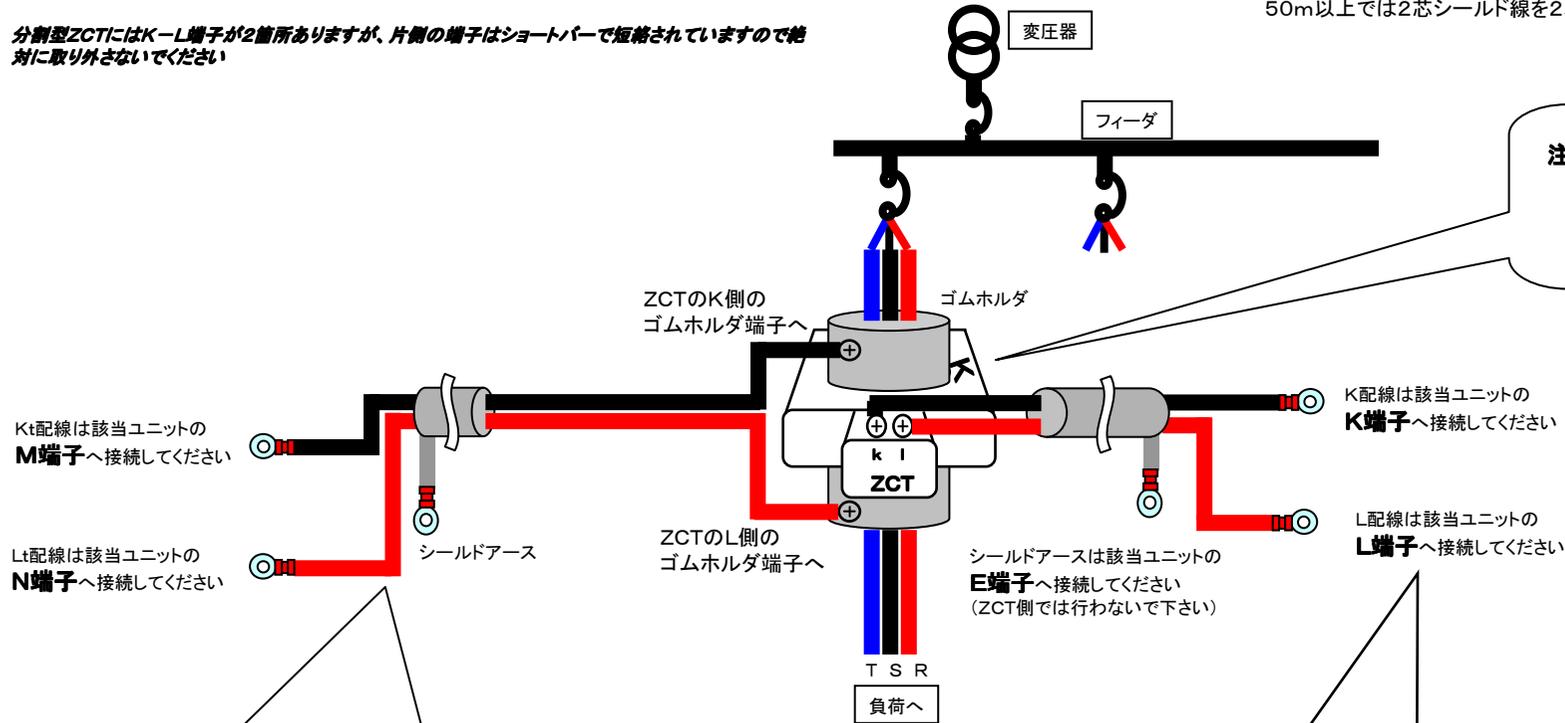


※ZCTとユニット間の配線距離が約50m以内では
 K-L/Kt-Lt配線に4芯シールド線を使用できます
 50m以上では2芯シールド線を2本使用してください

⑥ ゴムホルダ用分割型ZCT(フィーダ取付時)

分割型ZCTにはK-L端子が2箇所ありますが、片側の端子はショートバーで短絡されていますので絶対に取り外さないでください

※ZCTとユニット間の配線距離が約50m以内では
K-L/Kt-Lt配線に4芯シールド線を使用できます
50m以上では2芯シールド線を2本使用してください

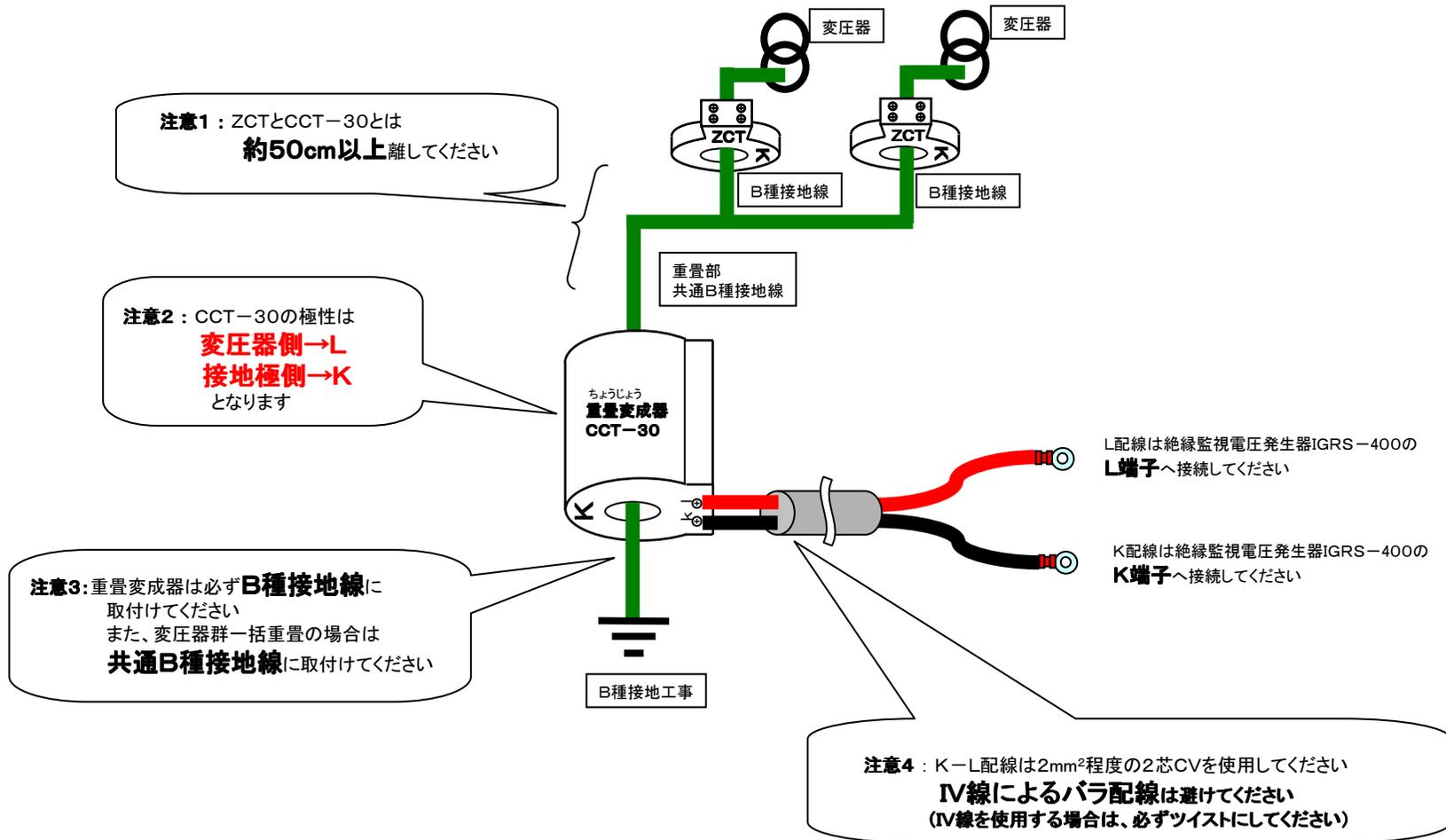


注意1 : ZCTの極性は
変圧器側→K
負荷側 →L
となります

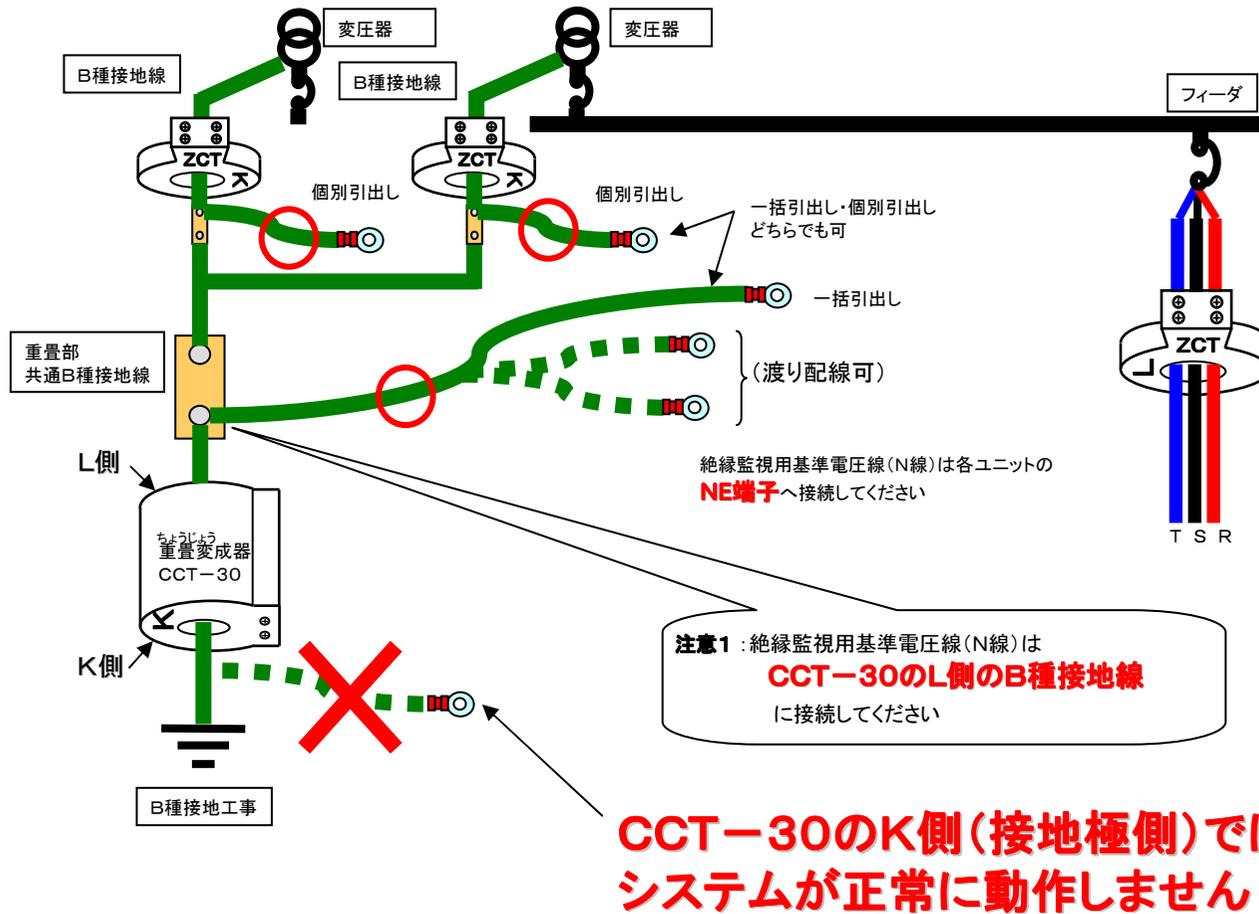
注意3 : 分割型ZCTには試験端子 (Kt端子-Lt端子) がありません
ゴムホルダを使用する場合のKt-Lt配線は、ゴムホルダの試験端子へそれぞれ接続してください。
ゴムホルダの試験端子は、ZCTのK側をKtとし、ZCTのL側をLtとして取り扱ってください。
配線には**2芯シールド線(1.25mm²程度)**を使用してください※

注意2 : K-L配線には
2芯シールド線(1.25mm²程度)を使用してください※

⑦ 重畳変成器CCT-30



⑧ 基準電圧入力線(NE線)



お問合せ

**ミドリ安全株式会社
電気計測事業部**

**電話:03-5742-7211
FAX:03-5742-7214**